

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 2 月 27 日

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------|------------------------------------|-----------|--|
| 事業所番号 | 3471503320 | | |
| 法人名 | 有限会社クラフト・ケイ | | |
| 事業所名 | グループホーム 和楽 | | |
| 所在地 | 福山市新市町戸手803-8 (電話) 0847-52-7577 | | |
| 自己評価作成日 | 平成27年2月2日 | 評価結果市町受理日 | |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3471503320-00&PrefCd=34&VersionCd=022 |
|-------------|---|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|-------|-------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 医療福祉近代化プロジェクト |
| 所在地 | 広島市安佐北区口田南4-46-9 |
| 訪問調査日 | 平成27年2月27日 |

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

日頃は近所を散歩したり入居者さんと一緒に週2回買い物に行ったり、認知力低下をできるだけ遅らそうと手作りの物を使い、脳トレーニングや体操なども行っている。個別に脳トレーニングやリハビリなどのプログラムを作りそれに添って行っている。更に、月4回以上の施設行事(月1回の外出計画)を行っている。また、年2回和楽ならではの地域・家族との交流会を行い毎回好評を頂いている。他に地域行事へ積極的に参加をしたり地域の方に来ていただいたりし、交流を深め、親しみやすい『和楽』を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム和楽は、閑静な住宅街に位置し、近くに芦田川が流れ日常的な散歩が楽しめる環境にある。敷地内に畑があり利用者が野菜の種まきから水やり収穫までを行っている。又プランターや鉢に季節の花を植え水やりをして観賞し外気浴と気分転換が出来るように配慮している。地域の一員として交流・貢献を目指し、地域への働きかけを積極的に行っている。利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供を心がけている。法人理念として家庭的な雰囲気の中穏やかな老後が送れるように「木のぬくもりと癒しの和の中で、利用者が自立した尊厳ある暮らし」を掲げ基本理念の共有と職員教育に努めている。研修会では、職員が担当を持ち回りで分担し、資料作り・講師を行う事で、職員の理解が深められる様に工夫している。毎月1回のカンファレンスを開催し、アセスメントやモニタリングを繰り返し、3ヶ月に1回見直しを行い現状に即した介護計画に基づいたケアが実践されている。

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 理念を額に入れ1階、2階に見えやすいところに掲げている。会議、毎月のミーティングでグループホームのあり方を確認、助言を行い記録を取っている。日々のケアを常に意識して、申し送りノートに記入し全員が確認している。 | 法人理念として家庭的な雰囲気の中穏やかな老後が送れるように「木のぬくもりと癒しの和の中で、利用者が自立した尊厳ある暮らし」を、玄関・事務所・2階に掲示し、毎朝の朝礼時に職員全員で唱和し、共有を図り実践に努めている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 地域のボランティアの方の訪問や、地域の保育所へ招かれたり、文化祭、福祉祭などにも、出来る範囲で出掛けている。 | 「地域で暮らし、地域と関わる」ということは、認知症高齢者グループホームの大きな趣旨の一つになっている。事業所では、町内会の行事に年6回参加している。溝掃除に職員が参加し地域の方と交流している。利用者の作品を公民館で行われる文化祭に出品し交流している。近隣の保育園園児が事業所を訪問されたり、運動会に席を取って下さり応援に行かれ交流している。小学生の社会見学訪問を受け入れ会話やゲームで交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 認知症キャラバンメイトなどで、講演させてもらったり、地域の方や、デイサービス利用のご家族の方などの相談を受けている。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | 今年6回の運営推進会議で報告や意見交換会などを行い、利用者によりよいサービスケアになるようにしている。 | 運営推進会議は、2ヶ月に1回、市介護保険課担当・地域包括支援センター・民生委員・町内会長・消防署・ボランティア・家族代表・スタッフ・法人関連施設代表が参加し、現状報告・活動状況・行事予定・利用状況等発表し、意見・情報交換が行われサービス向上に活かしている。地域での協力体制の作り方や民生委員からの情報等の報告又、緊急時の協力を得られるように意見交換している。 | 今後、運営推進会議に、地域包括支援センター職員は、大変お忙しいとは思いますが、協力して頂き毎回出席される事を期待します。又、小学校の先生、保育園の先生・警察官等幅広く運営推進会議に参加して頂けるように案内される事を期待します。 |
| 5 | 4 | ○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。 | 週1回の地域の連絡会(行政・福祉施設・居宅など)に出来るだけ参加したり、運営推進会議にも参加していただけるように、連携を図っている。 | 運営推進会議に市職員・地域包括支援センター職員の出席で事業所の実情の把握・理解を深めている。又、困難事例や事業所利用状況・申請手続き等質問・連絡・相談に窓口や電話で対応して協力関係を築くように取り組んでいる。医師会主催による介護保険課との連携で週に1回地域事業所の連絡会があり、情報交換している。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 夜間転倒の危険性の高い方、お二人に対し、ご家族の了承の元、センサーとセンサーマットを使用している。夜間(19時30分から翌日8時30)2階、階段に安全確保のためフェンスをさせてもらっている。 | 身体拘束の研修を行い、研修は担当者持ち回りで分担し、資料作り・講師を分担することで、職員の理解をより深められるように工夫している。鍵をかけないケアの大切さを理解し玄関は施錠していない。2階への階段については夜間帯のみ落下防止のフェンスをしている。利用者の外出したい気持ちを察知したら個別に対応し、散歩したり戸外での会話等を設け、閉塞感のない生活の確保に努めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 内部研修で高齢者虐待防止に関することを学び、言葉使いや態度など、気になることがあれば職員同士で注意し合い防止に努めている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 認識している職員もいるが、詳しくは学んでいないので、今後取り組んでいく。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約時、重要事項説明書、契約書などにて説明し、質問や疑問点を聞き、理解納得をもらっている。退所される場合、次の行き先や不安なことなどに対し助言・対応させてもらっている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 意見、要望など聞き記録として残し、行政への連絡先など伝え、運営に反映させている。 | 利用者の日常の生活の様子については、事業所では毎月家族に請求書と一緒に、利用者の生活状況を掲載した写真を掲載した「和楽新聞」を送付している。誕生日会でケーキを食べる利用者の様子や、風船バレーで活躍している様子等掲載している。本人の健康状態・受診等の状況書には担当者が健康状態、医療的な指示、食事・排せつ・入浴等の日常行動等についてコメントしており、事業所での暮らしの様子が伝えられている。また、家族の要望等については、家族の面会や行事参加の折に、できるだけ聞き取るように会話を多くするよう心がけている。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 毎月のミーティングで意見や提案を聞いている。また、日常の会話などでも意見や提案を聞いている。 | 毎月1回のミーティングや普段の会話の中から話し合い、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。代表・管理者は、話し易い雰囲気作り・関係作りに努め職員の意見・提案を聞き改善に向け取り組んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 有資格者に対しての手当。本人の勤務努力によって年1回の昇給。定期的な親睦会など行って、働きやすい職場にしている。日帰り旅行でもよいので全員参加できるようにしていきたい。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 情報公表の開示で書かれている研修以外で外部からの講師も呼んで研修行っている。内部研修を2ヶ月に1回行ったり、外部研修も行ける範囲で行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | 同業者への訪問、及び研修生の受け入れ（今年度は、尾道専門学校の生徒が2週間）、週1回の地域同業者との現状報告会・研修など行い質の向上を図っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 入居前に本人ともしっかりお話をさせてもらったり、何度か入居者の方と関われる時間を作ってもらったりなど、安心してもらえるように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | 相談・見学・利用に至るまで、家族が困っている事、不安に思っている事など聞き、受け止め安心して頂けるような対応をしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 居宅や病院などと連携をとり相談させてもらったり、緊急性の高い人を優先させてもらったり、他のサービス利用(お泊りデイ・高専賃・小規模多機能など)も含めた対応をさせてもらっている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 野菜作り、料理方法、お餅のつき方など、教えて頂いたり、出来る事は一緒にやらせてもらいながら、いい関係が築けるようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 家族の面会時、又は電話など利用し、現状報告をし、家族の思いを聞いている。また、行事などにも参加してもらっている。家族の思いを本人にお伝えしたり、日々家族の話をしながらい共に本人を支えていける関係を築いている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | 本人の住まれていた近所の人やお友達などの行き来が出来よう、また思い出の場所に行けるよう努めている。本人の住まれていた家に帰られ、近所の方と話をされた方もいらしゃる。 | 近隣の方の訪問時には、居室でくつろげるように配慮し、馴染みの関係の継続が出来るように支援している。お墓参りに家族の方が連れて行かれたり、外食に出かけたりして馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 認知力低下の為、なかなか利用者同士、関わりあう事が難しいが、席を移動したり職員が間に入るなどして、できるだけ孤立しないようにしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 退居されても、その後の経過を把握し、相談やアドバイスができるようにしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 本人を中心にどのようにする事が一番いいのか、日常的に話し合ったり、家族・本人から話を聞き個性を尊重できるようにしている。 | お一人おひとりの認知機能や健康の状態、人生歴、その人の個性性を踏まえ、意思の表明が困難な利用者に対しては、表情や思いを読み取るほか、選択しやすいように提示方法を工夫したり、ゆっくり待ったり、表明し易いような聞き取り方を工夫するよう配慮し本人本位に検討している | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | ご家族から生活歴など聞かせてもらったり、居宅のケアマネから情報を得たりし、職員で共有するようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 個人の介護日誌に一日の行動の過し方、精神・身体状態など細かく記入し、現状の把握に努めている。本人の和楽での役割を決め出来ることをしてもらっている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 毎月行っているミーティングで話し合った事を毎月ご家族に報告し意向、要望をきいたり、家族の面会時、又それ以外でも電話など利用し、意向・要望など聞き、それらを取り入れている。又、主治医の話なども取り入れながら3か月に1回見直し作成し、状態の変わらない方は6か月に一回作成し、同意・サインをもらっている。 | 毎月1回のカンファレンスを開催し、本人・家族・主治医・職員の意見などを反映した計画を作成すると共に、アセスメント、モニタリングを繰り返し3ヶ月に1回見直しを行っている。利用者及びその家族に対し、サービスの内容及び提供方法についてわかりやすく説明し、現状に即した介護計画書を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 介護日誌(個人日誌)に記録、気になることは、申し送りノートに書いたり、月1回のミーティングで話し合い、介護計画の見直しを行っている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | その時の状況に応じて、家族と連携しながらしながら支援している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 民生委員、ボランティア、福祉施設、教育機関、消防署などの協力も得ている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | 24時間対応の協力医療機関があるので、何かあればすぐ医師に連絡が取れるようになっている。その他の医療受診のある方はご家族との連絡を密にしてすぐに報告し受診してもらっている。 | 希望するかかりつけ医以外の眼科・皮膚科等の通院は、家族が行う事を原則としているが、急変時は事業所に対応している。また、支援上必要な場合には、通院に同行して医師からの話を聞き、家族と医療機関と事業所が一緒になって、利用者の生活を支援し適切な医療が受けられるように支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 看護師に相談したり、週1回訪問看護が入っているので状態によっては受診したり、協力医療機関には気軽に相談し、指示をあおって対応している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | ご家族の方とよく相談し、安心して頂けるようサポートしている。協力医療機関と情報交換を行い連携を図っている。協力医療機関から他病院に紹介された場合、その病院関係者とも連携を取っている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | ご家族、協力医療機関と話し合い、全員で方針を共有し取り組んでいる。 | かかりつけ医は24時間体制で週1回の往診と、訪問看護で支援している。入居時に家族には、事業所の方針「看取りに関する指針書」を説明し共有している。家族、医師、事業所がカンファレンスを開き、方針を固め、看取りを行っている。看取り経験のない職員に対しては、精神面や技術面からくる不安を軽減し、連絡体制の充実と職員面談の実施により、重度化・終末期に向けた支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | マニュアルを参考に、定期的に研修を行ったり、消防訓練も年2回は行っている。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 防災訓練を行ったり、近所にも協力を依頼している。また、避難場所が解るよう事務所に張り出している。 | 消防署の協力を得て年2～3回の避難・通報・初期消火・夜間想定等の訓練を利用者も実際に参加して行っている。消火器を使った訓練に職員・利用者も参加している。避難場所や避難経路の確認、を行っている。地域住民や町内会に日頃の交流を通して避難訓練の参加や災害時の協力を依頼するなど実現に向けて取り組んでいる。 | |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | その人のリズムや、ペースに合わせて尊重した対応に心掛けている。 | 利用者の肌の露出が不可避免的な入浴介助や排泄介助時においては、肌の露出を最小限にする、小声で声掛けをする等、気配りなど利用者の羞恥心に配慮した対応を行っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | 食べ物や飲み物、衣類や外出など、出来るだけ本人の意思・希望を聞き尊重している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | その日、その日で入居者一人一人のペースを保つように心掛けており、さり気なくサポートしている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 一人一人の好みで、髪型・服装をして頂いている。また、美容院に付き添ったり、その人の希望に合わせてカットをしたりしている。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 買い物、野菜を切ったり、テーブル拭き、下膳、食器洗いなど、出来る事は手伝ってもらっている。職員も同じテーブルで同じ時間に食べている。 | 職員は利用者と同じテーブルを囲み、食事が楽しめるように食事介助や声掛けをしながら一緒に食事をしている。利用者は職員と一緒に買物に出かけ、好みの食材を購入している。他、食事の準備で食材を切ったり、配膳・下膳が出来る利用者は行っている。近隣の方から野菜を頂き皆さんで食べている。又、ミキサー食や刻み食など利用者の状態に合わせて提供している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 栄養士がいるので、栄養バランスを考えカロリー・量なども人により変えている。水分量にも気をつけ最低1リットルは飲んでもらえるよう、なかなか飲めない人は一日の水分摂取量を記入している。飲み物はお茶だけでなく、本人に聞いたり毎日コーヒー・紅茶・ミルク・昆布茶など好きな物を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 声かけで歯磨きに行かれる方、介助にて行わせてもらっている方、うがいができない方はハミングッドなど使用し、イソジン液なども利用し、清潔保持をさせてもらっている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 排泄パターンを記録し、一人一人に合った時間帯に声かけをしたり、誘導したりしている。 | 排泄チェック表をもとにタイミングを見計らって、トイレへ誘導する方と自主的にトイレに行く方のパターンがある。夜間に声かけをしてトイレでの排泄ができるよう誘導されている。なるべく布パンツを使用し夜間のみ紙パンツを使用し本人の意思にゆだね自立に向けた支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 起床時に一杯のお茶を飲んでもらったり、乳製品を飲んでもらったり、繊維質の物を食材に取り入れたり、体操なども行っている。午後からは階段昇降などとし、腸の働きをよくすることも行っている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 入浴の希望に合わせて、2日、3日に1回の人など、時間帯も希望を聞いたりタイミングで入れるように支援をしている。入浴に限らず足浴、清拭も行なっている。 | 入浴は基本的に週2回から3回であるが利用者の希望に沿って入浴支援している。利用者の状態を見ながら、言葉やタイミングを選ぶなどの工夫をしている。拒否傾向の利用者への声掛けなどについては職員間で意見交換しながら、家族の来訪時に協力を得て声掛けや誘導で入浴・清拭・足浴・シャワーの支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 一人一人の生活リズムを把握し、安眠に繋げている。またその日の状態や希望により、居室や囲炉裏で休んでいただく事もある。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 一人一人に薬手帳があり、職員は受診、往診後は必ず見、理解している。服薬は飲み込みまで確認している。変化があれば主治医に相談させてもらっている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|------|------|---|---|--|-------------------|--|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 生活歴を把握し、その力が発揮できるように、出来る事は何でもして頂き、気分転換など出来るようにしている。一人一人の役割を決め、毎日行ってもらっている。 | | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 近場であれば、外出としていく事はあるが、そうでない場合は、家族にお願いする事もある。 | 最低月1回は、天気の良い日に職員と一緒に散歩に出かけたり、近隣の商店街への買い物同行の機会を設けている。散歩中にはそこで出会った人たちと笑顔で挨拶したり、また、買い物先ではその馴染みの店員と会話している。近隣の公園に花見に出かけたりバラ公園や芦田川へ散歩に出かけている。又、町内行事へ弁当持参で参加している。家族の方と外食へ出かける利用者もいる。日常生活の中で自然に地域の人達とのふれあいが出来る支援をしている。 | | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 家族よりおこずかいとしてお預かりし、買い物に行ったとき自分で払ってもらったりしている。 | | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 希望があればいつでもできるようにしている。連絡などでご家族に電話をしたり、手紙を送ったりする時は、代わって話をしてもらったり、同封したりしている。年賀状・暑中見舞いなども書いてもらい毎年送りやり取りをしている。 | | | |
| 52 | 19 | ○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 玄関に椅子を置いたり、レースのカーテンをし、眩しくないようにしたり、花を飾ったり、音楽をかけるなど工夫をしている。また、床暖房を使い足元から暖め、空気を汚さないような配慮もしている。 | 共有空間は、窓を大きく取ってあり明るく、壁には季節の行事のひなまつりの作品や習字・手作りカレンダー・干支の羊の飾り物を掲示している。畳の間が設けてあり、利用者が横になってくつろいでいる。リビングからは調理の様子や外の景色も眺められ見守りもしやすくなっていて、生活感や季節感を感じることができる。又フロアーには床暖房を設備され、室内は季節感を考慮しながら年間を通じて健康維持に最適と思われるの温度・湿度に設定し居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | ホールに椅子を置き座られたり、囲炉裏に座ってお話をされたり、テレビを見られたりされている。 | | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 今まで使われていた布団・タンス・テーブル・椅子・洋服かけ・ご家族の写真など持って来られ居心地のよいようにされている。 | 利用者は、居室に馴染みのタンスや鏡・テレビ・家族の写真等大切な物品を持ち込み、これまでの生活が継続出来るその人らしい居室作りに取り組み、居心地よく暮らせるような工夫をしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | トイレ・入浴・居室など目印になるものをしたり、バリアフリーで移動しやすいうにしている。 | | | |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|--|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 | ○ | ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない |

| | | | |
|----|---|---|---|
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない |
| 66 | 職員は、生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない |

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 和楽

作成日 平成 27年 3月 2日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点, 課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|-----------------------------------|-----------------|---|------------|
| 1 | 4 | 運営推進委員会への包括支援センターの職員参加を積極的に働きかける。 | 参加して頂ける様に働きかける。 | 参加して頂ける様に日程、時間帯の調整を考えて行く。 | 1年 |
| 2 | 4 | 地域の方への参加呼びかけの為議題内容を明確にする。 | 地域の方の参加人数を増やす。 | 運営推進委員会の主旨を理解して頂き、議題内容も興味のあるようなものにする。時にはアドバイスを頂くなどし参加人数を増やしていく。 | 1年 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。